

グリーンサークル 13号

多摩のめかいづくり講座 特集！！

「めかい」とは、江戸時代から多摩地域の里山の自生する篠竹を使って、農閑期に作られ、日常生活用具として重宝されていた籠です。当時の農家で作っていたように、材料の篠竹採取からめかい（目籠）づくりまで、実践を通して学ぶ講座です。



多摩めかいの会の成り立ち ご存知ですか？

丘陵部の多い多摩市域には、かつて多くの篠竹が自生していました。この篠竹を利用して、江戸時代後期には、日常生活用具としての箆や目籠が製造・販売もされるようになり、農閑期の副業とし盛んに生産され、多摩の特産品として知られていました。

その後、プラスチックなどの工業製品の普及などにより、産業としてのめかいづくりは徐々に衰退していきましたが、めかいの技術を伝承したいという思いを持つ地域の方々や、その方々からめかい編みを学んだ皆さんにより、自主サークル活動や地域のバザーへの出展、市内の学校や児童館でのめかい指導などが行われてきました。

しかしながら、近年は、めかいづくりができる方も徐々に減り、めかいを学び、作ることは難しくなってきました。

こうした中、平成25年に多摩市市なな山緑地の会

民活動支援課主催による市民活動きっかけづくり事業「多摩のめかいづくり講座」が開催され、講座を修了された方々や講座スタッフが集まり「多摩めかいの会」が作られ、めかいづくりの活動が始まりました。



多摩市和田緑地保全の森において、平成15年1月から地域の人々と多摩市グリーンボランティア講座を修了した人々が集まって、残された里山の雑木林で活動を行っています。めかいの材料となることを考えて篠竹の育成を図ってきたことが本講座で役立っています。



多摩市グリーンボランティア連絡会とは？

多摩市立グリーンライブセンターを多摩市、恵泉女学園、市民ボランティアグループの三者で協働運営するために、多摩市内で「みどりと水」に関する活動を行う13団体が集まって平成23年3月に設立された団体です。グリーンボランティア講座の運営、市民企画主催の講座イベントの実施、みどりと水に関わる

市民ボランティアグループの育成・サポートなどを行っています。



シノダケとは？

シノダケはアズマネザサが成長したものです。関東や東北地方で多く見られることから、アズマネザサという名前となりました。

アズマネザサ

- ・科名：タケ科
- ・属名：メダケ属
- ・学名：Pleioblastus chino



関東地方では、内陸のススキ型草地のなかに混ざる場合や、二次林の林床に生える場合などがあるように思われます。竹や笹は周期的に花を咲かせ、アズマネザサの場合30～100年といわれています。

主催：多摩市めかいの会

多摩市グリーンボランティア連絡会

協力：なな山緑地の会

多摩市グリーンボランティア通信 グリーンサークル 9号

発行日：2014年3月23日

編集：多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

発行責任：多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園